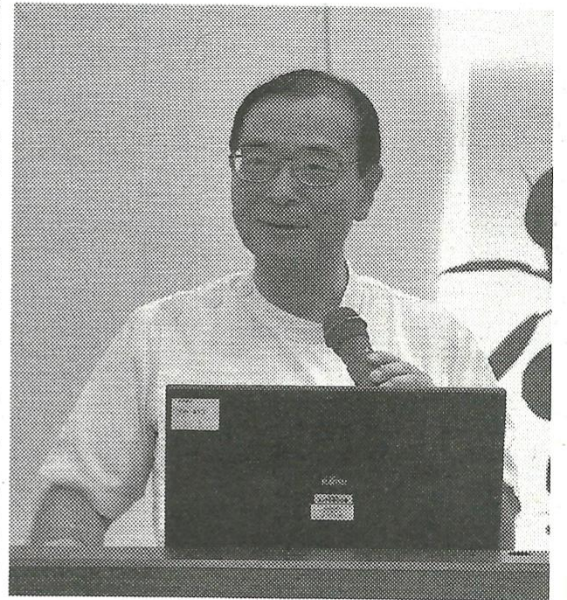


# 血圧の新基準解説

製鉄室蘭病院でセミナー



血圧数値の新基準や高血圧と心血管病との関係性などを解説した山内医師

製鉄記念室蘭病院（松木高雪院長）の「第15回市民健康セミナー」が16日、室蘭市知利別町の同病院1階ラウンジで開かれ、4月に改定された「高血圧治療ガイドライン2014」の血圧数値の新基準と高血圧による心血管病リスクなどについて市民らが理解を深めていた。

一般市民向けの恒例の健康講座。今回は、山内

一曉参与・内科長が講師を務め「高血圧について」ここが変わった！血圧の新基準」をテーマに解説。同ガイドライン2014が新たに定めた降圧目標値などについて説明した。

血圧値は、診察室血圧と家庭血圧に分類され、若年者・中年者や高齢者、糖尿病患者らそれぞれに降圧目標値が設定された。これまでは、高齢者

の診察室血圧の目標値が140～90未満だったのに対し、新基準では高齢者の分類が65～74歳の前期高齢者と75歳以上の後期高齢者に分けられ、数値も150～90未満などに緩和された」という。

高血圧と心血管病の関係性について説明。山内参与は「血圧が高いほど年齢や性別を問わず心臓病や血管障害にかかりやすい。積極的な降圧は必要だが、必ず担当医に相談の上、自分の体に合った治療をしてほしい」と話していた。

（高橋紀孝）